

GITMO AT HOME, GITMO AT PLAY

悪名グアンタナモの隠れた現実

PHOTOGRAPHS BY DEBI CORNWALL



グアンタナモ湾を眺めながら
休憩を取る米兵たち

Picture Power



屋外に設置された映画観賞シアター



バーベキューを楽しむスペースも完備



人のいない子供向けプール

撮影:デビ・コーンウォール

米ブラウン大学で現代文化とメディアを専攻しながら写真を学び、マリー・エレン・マークなど有名写真家のアシスタントや通信社で働く。ハーバード大学ロースクール卒業後、弁護士を経てドキュメンタリー写真家となる

Photographs by Debi Cornwall

Picture Power

基地の敷地内にはマクドナルドの店舗もある



収容者が使用している日用品

戦争で捕虜や行方不明になった兵士たちに

敬意を表して準備されたディナーテーブル

模範囚向けのメディア観賞室。床には足輪がある



テロ容疑者への残虐な拷問、有刺鉄線が張り巡らされたフェンス、オレンジ色のつなぎの囚人服——キューバのグアantanamo米海軍基地は、アメリカの対テロ戦争の負の側面が凝縮された場所として人々の脳裏に強烈に焼き付いている。

だが、世間に広がるそうしたイメージだけではグアantanamoの真の姿を伝え切れない。そう考えた写真家デビ・コーンウォールは、ここに「隔離」されている人々——米軍兵士と収容者の双方——の生活をカメラに収めることで、基地をめぐる議論に一石を投じようとしている。

整然とした居住空間や充実した娯楽施設、青い海と空などの写真が映し出すのは、従来のグアantanamoのイメージとは一線を画したシニールな現実だ。そして、そこからは米兵と収容者の意外な共通点も浮かび上がる。ここでの生活は規律と秩序と退屈さに支配されており、自ら望んでこの地にとどまっている者は誰もいないということだ。

オバマ政権は09年に収容施設の閉鎖を決めたが、議会の反対で計画は頓挫。今も148人が拘束中だ。収容者の半数以上は何年も前に釈放が決まっているが、受け入れ国が見つからないため拘束が続いている。